

に配布し、調査員が各戸を訪問して回収した。調査員には、調査表の記入に関する注意点を事前に十分に伝え、回収時に未記入の有無を確認して、可能ならば再質問により未記入部分を埋めるように指示した。調査票は、高齢者の仕事、地域や家庭での役割、および、身体的・精神的健康状態に関して調べるもので、主任研究者、分担研究者が実施した予備的調査の結果などを参考に作成した(付録)。自記式を原則としたが、対象者の心身の状況などにより、近親者が記入した場合もあった。

調査票の具体的な質問項目は以下の通りである。

- 1) 基本属性：性、年齢、同居者、学歴
- 2) 収入がともなう仕事（シルバー人材センターを除く：有無、種類、今後の希望
- 3) シルバー人材センターの仕事
- 4) 家庭内の仕事・役割：有無、種類
- 5) 地域の団体活動；有無、役員
- 6) ボランティア活動：有無、種類、今後の希望
- 7) 身体的・精神的健康：活動能力（老研式活動能力指標、移動能力）、受療状況、転倒歴、抑うつ度、自立度
（倫理面への配慮）

調査実施地域自治体に調査内容を詳しく説明し許可を得た。また、口頭で調査に同意の得られた人からのみ調査票回収をおこない、記入・提出に関して強制はしないことを徹底した。調査票の結果は集団的に処理した。

C. 研究結果

1) 回答者について

調査票に回答の得られた人は1194人で、回答率は81.1%であった。しかし、研究班の成立が遅れたことから調査実施時期が遅く、今年度は報告書作成までにデータ集計・分析が可能になったのは300人(男性：

130人、平均年齢で73.2±6.1、女性：170人、平均年齢74.8±6.8)であった。そこで、以下はこの300人の結果をまとめた。

2) 役割に関する実態調査結果

①収入がともなう仕事、②今後やりたい仕事、③シルバー人材センターの仕事経験、④家庭内の仕事・役割、⑤地域の団体・組織・会への加入、⑥その団体における役員、⑦ボランティア活動の経験、⑧今後やりたいボランティア活動、の8項目の有無を、性別、年齢別（65-74歳：前期高齢者 vs 75歳以上：後期高齢者）に調べた。

仕事については、男性で、また、前期高齢者で、「あり」が有意に多く、最多の男性前期高齢者では50%が、最少の女性後期高齢者では6%が仕事を有していた(表1)。今後やりたい仕事のある人、シルバー人材センター仕事経験ある人の割合は、性年齢とは関係なく低い値であった(表2,3)。家庭内の仕事・役割のある人の割合は、いずれの性、年齢でも80%以上だったが、男性前期は低く、女性前期は高い結果だった(表4)。地域での団体活動に加入している人も、いずれの性、年齢でも80%以上と多く、有意な性差、年齢差はなかった(表5)。役員をしている人は少なかったが、その割合は男性に多く、特に男性後期に多かった(表6)。ボランティア活動経験者の割合は、男性前期が最低(51.8%)、男性後期が最高(70.8%)だった(表7)。今後やりたいボランティアのある人はいずれの性、年齢でも10%以下だった(表8)。

3) 移動能力別の役割

2)の8項目の有無を移動能力別に調べた。移動能力は、高低2群に分けた(高：身体的障害なく自由に外出可、低：身体的障害あり一人で遠出困難、あるいはそれ以下)。その結果、仕事ある人、および、家庭内仕事・役割のある人の割合が、移動能力が高い群で有意に高かった(表9)。

D.考察

高齢者が実際に担っている役割および今後担ってみたい役割に関する研究の一環として、群馬県嬭恋村の高齢者を対象に、仕事・役割の実態を調べた。調査は、嬭恋村西部地区でおこなった。西部地区はキャベツ主流の村の農業を支える地域といわれ、村の特性の一部を反映すると考えられる。また、東部地域に比べ人口の流入が少ない点も、調査に適していると考えられる。

今年度の報告書では、対象者の一部(300名)に関する結果を報告したが、その結果をまとめると以下のようなことが言えるであろう。①男性高齢者では、若いうちは収入のある仕事の比重が小さくないが、より高齢になるとその比重は小さくなり、代わりに家庭内の仕事、地域団体での役員活動、ボランティア活動の比重が増す。②女性高齢者では、若いうちは家庭内での仕事・役割に非常に大きく関わるが、より高齢になるとその関わりはやや弱くなる。しかし、他の面での役割が増すというわけではない。③身体機能の良好な人の方が多くの仕事・役割を有する。

これらの内容はきわめて常識的なものと思われるが、その一般性については、調査回答者全員についての結果、さらに他地域での結果をみて検討する必要があるだろう。

来年度は全回答者の結果について、さらには、仕事の種類、健康状態との関わりなどについて詳しい検討をする予定である。

E.結論

群馬県嬭恋村の高齢者を対象に、役割に関する調査を実施した。一部対象者について分析したところ、以下の結果が得られた。①収入をともなう仕事のある高齢者は50%以下。その割合には明確な性差、年齢差があり、男性で、また、若年高齢者が高い。②80%以上の高齢者が何らかの家庭内

の仕事・役割を有するが、その割合は若年女性で特に高く、若年男性で低い。③地域の団体活動に参加する高齢者は性年齢に関係なく多いが、役員経験者はごく一部であり、その割合は老年男性に多い。④収入のともなう仕事のある人、家庭内の仕事・役割のある人は、移動能力の高い高齢者に多い。

F.健康危険情報

特になし

G.研究発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

特になし

研究協力者

美才治幸子、滝沢里美、土屋純子、干川記江子、野寺美枝、佐藤治子(嬭恋村役場保健福祉課)

丸山孝一(桜美林大学大学院)

表1 収入をともなう仕事がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	50.0%(41 人)	25.0 (25)	<0.01
後期 (75 歳-)	22.9 (11)	6.2 (5)	<0.01
前期 vs 後期	<0.01	<0.01	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

表2 今後やりたい仕事がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	8.9%(4 人)	3.6 (2)	ns
後期 (75 歳-)	6.9 (2)	2.2 (1)	ns
前期 vs 後期	ns	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表3 シルバー人材センターの仕事経験がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	2.7%(2 人)	2.3 (2)	ns
後期 (75 歳-)	0.0 (0)	1.3 (1)	ns
前期 vs 後期	ns	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表4 家庭内の仕事・役割がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	82.9%(68 人)	97.7 (86)	<0.01
後期 (75 歳-)	91.7 (44)	90.2 (74)	ns
前期 vs 後期	ns	<0.05	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表 5 地域の団体・組織・会に加入している人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	79.7%(59 人)	80.0 (64)	ns
後期 (75 歳-)	86.4 (38)	85.1 (63)	ns
前期 vs 後期	ns	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表 6 地域の団体で役員をしている人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	11.7%(9 人)	2.4 (2)	<0.05
後期 (75 歳-)	27.0 (13)	6.1 (5)	<0.01
前期 vs 後期	<0.05	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表 7 ボランティア活動の経験がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	51.2%(42 人)	60.2 (53)	ns
後期 (75 歳-)	70.8 (34)	57.3 (47)	<0.1
前期 vs 後期	<0.05	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

表 8 今後やりたいボランティア活動がある人の割合（括弧内は人数）

年齢	男性 (%)	女性 (%)	男性 vs 女性
前期 (65-74 歳)	6.1%(5 人)	4.5 (4)	ns
後期 (75 歳-)	6.3 (3)	2.4 (2)	ns
前期 vs 後期	ns	ns	

有意差の分析は Fisher の直接法を用いた χ^2 検定による

ns : not significant

厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者の QOL に関連する活動についての検討

分担研究者 高田和子 独立行政法人国立健康・栄養研究所主任研究員

研究要旨

身体活動量を反映する活動（歩数、運動の実施）、異なる種類の作業（体を動かす作業、収入を得る作業、収入を得ない作業）、他者とのかかわりを持つ活動（地域活動、他人の世話）、知的作業（学習活動、新聞を読む、本・雑誌を読む）、役割をもつ活動（相談にのる、若い人に話しかける）の 13 種類の活動について、その実施の有無と QOL の関係を検討した。対象は 1 町に在住する 65 歳以上のすべての住民とし、郵送留め置き法にて調査を実施した。調査対象数は 3,679 名であり、52.1%にあたる 1,915 名から回答がえられた。そのうち、性・年齢などが明確である 1,755 名を解析対象とした。

歩数が多い、運動の実施など身体活動を高める活動の実施では生活活動力と健康満足感が高かった。QOL の 6 個の下位尺度すべてを良好にしていたのは、学習活動、新聞を読む、本・雑誌を読むなどの知的活動の実施や他人の世話、相談にのる、若い人への話かけの実施であった。人的サポート満足感は、自分へのサポートの満足度を問う質問項目であるにもかかわらず、他者をサポートするような活動の実施により高くなっていた。今後の調査においては、活動の実施のみでなく、その中での役割にも着目した調査項目の設定が重要と考えられた。

A. 研究目的

高齢者においては、様々な社会活動への参加が健康度を高めることが報告されてきた（芳賀、1988、安田、1989）。我々のこれまでの研究では、身体活動を高めることが高齢者の QOL を高くすることを報告してきた（太田ら、2001、久保田ら、2004）。社会活動への参加は、身体活動量の増加、他者との交わりの場の提供など、様々な要素からなっており、社会活動への参加も QOL を高めることが期待できる。特に、身体活動の実施では改善の少ない QOL の要素の改善が期待できる。QOL の様々な要素を高めるためには、身体活動量の多少や人との交流以外の生きがいや役割のようなものが関係するのではないかと推測できる。

本年度は 6 つの下位尺度により地域在住高齢者の QOL を評価する指標を用いて、運動などの身体活動の他に様々な活動の実施の有無が QOL のどのような部分に影響するかを解析し、QOL に影響しうる要因を検討する。

B. 研究方法

愛知県名古屋市に隣接する町に在住する 65 歳以上の者 3,679 名を対象に郵送留め置き法により調査を実施した。調査内容は、①健康状態（自立度、疾病の罹患状況）、②生活習慣（運動習慣、食習慣、睡眠、喫煙、飲酒など）、③活動への参加状況（地位活動、学習活動など）であった。QOL は、太田ら（2001）が開発した地域高齢者のための

QOLの質問紙を使用した。この質問紙では、QOLの下位尺度として、生活活動力、健康満足感、人的サポート満足感、経済的ゆとり満足感、精神的健康、精神的活力の6項目を評価している。

活動の有無によるQOL得点の比較は、unpaired-T検定により行った。統計処理には、SPSS ver.13.0Jを使用した。

(倫理的配慮)

本調査は町の保健センターとの共同で実施しており、対象者の抽出、発送など個人情報扱う部分については、すべて保健センターで実施した。データの解析時には、すべてID番号で扱い、個人情報は扱わなかった。

C. 研究結果

アンケートは1,915名から回答が得られ、回収率は52.1%であった。そのうち、性・年齢が明確で、対象年齢外からの回答を除く1,755人を解析対象とした。回答時点での自立度を6段階で表1に示した。男性では90%、女性では78%がバス・電車等を使っての一人での外出が可能であった。自立度の低い者の割合は、どの段階でも女性に多かった。

一人で外出可能と回答した者について、各活動の実施の有無とQOLの各下位尺度の得点を表2、3に示した。活動内容は、身体活動量を反映する活動(歩数、運動の実施)、異なる種類の作業(体を動かす作業、収入を得る作業、収入を得ない作業)、他者とのかわりを持つ活動(地域活動、他人の世話)、知的作業(学習活動、新聞を読む、本・雑誌を読む)、役割をもつ活動(相談にのる、若い人に話しかける)の13種類とした。QOLのそれぞれの下位尺度をみると、生活活動力は、体を動かす作業、収入を得ない作業、本・雑誌を読む、友人の訪問、

相談にのるを実施している場合、男女とも高くなった。女性では歩数が多い、運動を実施でも高かった。健康満足感(運動、他人の世話、新聞を読む、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけ)の実施で男女とも高く、歩数が多い、収入を得る仕事の実施では男性のみで、体を動かす作業では女性のみで高かった。人的サポート満足感(他人の世話、新聞を読む、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけ)で男女とも高く、運動と体を動かす作業、学習活動では女性のみ、収入を得る仕事、収入を得ない仕事では男性のみで実施している場合に高かった。経済的ゆとり満足感(本・雑誌を読む、相談にのる、若い人への話しかけ)で男女とも高く、学習活動、新聞を読むは女性のみ、友人の訪問では男性のみで実施している者で高かった。精神的健康(本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけ)の実施で男女とも高く、歩数が多い、運動の実施では男性のみ、体を動かす作業、地域活動、他人の世話、学習活動の実施では女性のみで高かった。精神的活力は、いずれの作業でも実施している者で男女とも高かった。

D. 考察

今回使用したQOLの尺度は、地域の高齢者のQOLを様々な要素から評価することを目的として作成されている。これまで、この指標を使用した研究では、歩数が多いことや運動の実施など身体活動量の多いもので生活活動力や健康満足感が高いことが報告されている(太田ら、2001、久保田ら、2004)。今回の結果も歩数、運動の実施では生活活動力、健康満足感が高かった。しかし、これまでの研究でも今回の結果でも、歩数が多い、運動の実施では人的サポート満足感や精神的健康は必ずしも高くはなら

ない。本研究では、QOLを高める可能性のある活動等を検討するために、学習活動、他者との関わり等の異なった活動について検討した。その結果、男女ともに QOL を全体的に高めることができたものは、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけであった。これは、これまで検討してきた身体活動量を高めることよりも、明らかに総合的に QOL を高め、男女差も見られなかった。新聞を読む、他人の世話も比較的多くの QOL の下位尺度を高め、また女性では学習活動も生活活動力以外の QOL を高めていた。人的サポート満足感は、質問項目においては自分をサポートしてくれる人に関することを聞いているが、相談にのる、他人の世話などサポートしていることによって高くなっていた。また、negative な感情の少ないことを示す精神的健康も、本・雑誌を読む、友人の訪問、相談にのる、若い人への話しかけで良好であり、女性では地域活動、他人の世話、学習活動を実施しているものでも高くなっていた。これらのことは、高齢者においては、なんらかの活動によって身体活動量を高めるだけでなく、知的な好奇心を満足させるような学習活動、新聞、本などを読むことや、自分が他人の世話をしたり、相談にのるような何らかの意義・立場・役割などを持つことが QOL を総合的に良好にすることができる可能性を示唆していると推測できる。これまで運動の実施や仕事の有無などの質問により QOL を検討してきたが、活動の実施の有無という観点からのみでなく、それらの活動においてどのような役割を果たしているかと QOL の関係を検討することが、高齢者の QOL を高める活動の場の提供においては、重要であろう。

E. 結論

高齢者の QOL は知的活動や他人の世話、

相談にのるなどの活動により、総合的に高められている可能性が示され、今後の検討では種々の活動の実施の有無だけでなく、その中でどのような立場にあるかにも着目した質問項目の作成が重要と考えられた。

F. 健康危機情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

引用文献

- 1) 芳賀博他. 地域老人の日常生活動作能力に関する追跡研究. 民族衛生 1988; 54: 217-33.
- 2) 安田誠史他. 在宅高齢者の日常生活動作能力の低下に関連する生活様式. 日公衛誌 1989; 36: 675-81.
- 3) 太田壽城他. 地域高齢者のための QOL 質問表の開発と評価. 日公衛誌 2001; 48: 258-66.
- 4) 久保田晃生他. 高齢者の身体活動状況と QOL との関連について. 保健の科学 2004; 46: 701-8.

表1 対象者の自立度

	男性		女性	
	人数	(%)	人数	(%)
一人で外出可能	745	(90.0)	724	(78.1)
家庭内・近隣での移動可能	33	(4.0)	108	(11.7)
家庭では少し歩ける	28	(3.4)	38	(4.1)
起きているがあまり動かない	10	(1.2)	23	(2.5)
寝たり起きたりしている	9	(1.1)	21	(2.3)
1日中床ですごす	3	(0.4)	13	(1.4)

表2 各活動の実施と QOL の下位尺度の得点 (男性)

		n	生活活動力	健康満足感	人的サポート満足感	経済的ゆとり満足感	精神的健康
1日の歩数	3000歩未満	331	4.6 ± 0.7	2.1 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.8	1.6 ± 1.1
	3000~6000歩	209	4.7 ± 0.6	2.4 ± 0.9 #	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.8	1.8 ± 1.1 #
	6000歩以上	143	4.7 ± 0.5	2.4 ± 0.9 #	2.8 ± 0.6	1.2 ± 0.9	1.8 ± 1.1
1回30分以上週2回以上の運動	なし	368	4.6 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.9	1.6 ± 1.1
	あり	332	4.7 ± 0.7	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.8	1.8 ± 1.1 *
1日30分以上の体を動かす作業	週に2回以下	354	4.6 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
	週に3回以上	363	4.7 ± 0.6 *	2.3 ± 0.9	2.8 ± 0.6	1.2 ± 0.9	1.7 ± 1.1
給料・謝金を得る仕事	なし	463	4.6 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.7	1.2 ± 0.8	1.6 ± 1.1
	あり	243	4.6 ± 0.7	2.5 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 *	1.2 ± 0.9	1.8 ± 1.0
収入を得ない仕事(家事・家庭菜園等)	なし	339	4.5 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.7	1.2 ± 0.9	1.6 ± 1.1
	あり	372	4.7 ± 0.6 **	2.3 ± 0.9	2.8 ± 0.5 *	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
地域活動	なし	639	4.6 ± 0.7	2.3 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
	あり	85	4.6 ± 0.6	2.4 ± 0.9	2.8 ± 0.6	1.2 ± 0.9	1.9 ± 1.1
自分以外の人の用事・世話	なし	553	4.6 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
	あり	159	4.7 ± 0.6	2.5 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 *	1.2 ± 0.9	1.8 ± 1.1
友人を訪問	なし	340	4.6 ± 0.7	2.1 ± 1.1	2.6 ± 0.7	1.1 ± 0.9	1.5 ± 1.1
	あり	377	4.7 ± 0.6 *	2.4 ± 0.9 **	2.9 ± 0.4 **	1.3 ± 0.8 **	1.9 ± 1.1 *
学習活動	なし	627	4.6 ± 0.7	2.3 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
	あり	96	4.7 ± 0.5	2.4 ± 0.9	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.9 ± 1.1
新聞を読む	なし	19	4.4 ± 1.2	1.6 ± 1.1	2.0 ± 1.1	0.9 ± 1.0	1.4 ± 1.2
	あり	708	4.6 ± 0.6	2.3 ± 1.0 **	2.8 ± 0.6 **	1.2 ± 0.8	1.7 ± 1.1
本や雑誌を読む	なし	244	4.5 ± 0.8	2.1 ± 1.1	2.6 ± 0.7	1.0 ± 0.9	1.5 ± 1.1
	あり	473	4.7 ± 0.6 **	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 **	1.3 ± 0.8 **	1.8 ± 1.1 *
家族や友人の相談にのる	なし	206	4.5 ± 0.8	2.1 ± 1.0	2.5 ± 0.8	1.0 ± 0.9	1.5 ± 1.1
	あり	506	4.7 ± 0.6 **	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 **	1.3 ± 0.8 **	1.8 ± 1.1 *
若い人に話しかける	なし	164	4.5 ± 0.7	2.0 ± 1.1	2.5 ± 0.8	1.1 ± 0.8	1.4 ± 1.1
	あり	550	4.7 ± 0.6	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 **	1.3 ± 0.8 **	1.8 ± 1.1 *

* p<0.05, ** p<0.01 実施による差あり、# p<0.05, ## p<0.01 1日の歩数3000歩未満に対して差あり

表3 各活動の実施と QOL の下位尺度の得点 (女性)

		n	生活活動力	健康満足感	人的サポート満足感	経済的ゆとり満足感	精神的健
1日の歩数	3000歩未満	315	4.9 ± 0.6	2.2 ± 1.1	2.8 ± 0.6	1.4 ± 0.9	1.5 ± 1
	3000~6000歩	234	5.0 ± 0.2 #	2.4 ± 0.9	2.8 ± 0.5	1.4 ± 0.8	1.7 ± 1
	6000歩以上	89	4.9 ± 0.3	2.5 ± 0.9	2.9 ± 0.4	1.3 ± 0.8	1.8 ± 1
1回30分以上週2回以上の運動	なし	349	4.8 ± 0.6	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.4 ± 0.8	1.6 ± 1
	あり	314	5.0 ± 0.2 **	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.4 *	1.3 ± 0.9	1.7 ± 1
1日30分以上の体を動かす作業	週に2回以下	549	4.8 ± 0.7	2.1 ± 1.1	2.7 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.4 ± 1
	週に3回以上	134	4.9 ± 0.3 **	2.4 ± 0.9 *	2.8 ± 0.5 *	1.4 ± 0.8	1.7 ± 1
給料・謝金を得る仕事	なし	549	4.9 ± 0.5	2.2 ± 1.0	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.6 ± 1
	あり	134	4.9 ± 0.5	2.6 ± 0.8	2.8 ± 0.5	1.4 ± 0.8	1.7 ± 1
収入を得ない仕事(家事・家庭菜園等)	なし	206	4.8 ± 0.7	2.2 ± 1.0	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.6 ± 1
	あり	471	4.9 ± 0.3 *	2.3 ± 1.0	2.8 ± 0.6	1.4 ± 0.8	1.6 ± 1
地域活動	なし	586	4.9 ± 0.5	2.3 ± 1.0	2.8 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.6 ± 1
	あり	85	5.0 ± 0.2	2.4 ± 0.9	2.8 ± 0.6	1.5 ± 0.8	1.8 ± 1
自分以外の人の用事・世話	なし	422	4.9 ± 0.6	2.3 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.5 ± 1
	あり	249	4.9 ± 0.3	2.4 ± 0.9 *	2.8 ± 0.5 *	1.3 ± 0.8	1.8 ± 1
友人を訪問	なし	241	4.8 ± 0.6	2.1 ± 1.1	2.6 ± 0.7	1.3 ± 0.9	1.4 ± 1
	あり	450	4.9 ± 0.3 *	2.4 ± 0.9 **	2.9 ± 0.5 **	1.4 ± 0.8	1.8 ± 1
学習活動	なし	469	4.9 ± 0.5	2.2 ± 1.0	2.7 ± 0.6	1.3 ± 0.9	1.5 ± 1
	あり	217	4.9 ± 0.4	2.5 ± 0.8 **	2.9 ± 0.4 **	1.5 ± 0.8 **	1.8 ± 1
新聞を読む	なし	79	4.8 ± 0.9	2.1 ± 1.1	2.6 ± 0.8	1.1 ± 0.9	1.5 ± 1
	あり	623	4.9 ± 0.4	2.3 ± 1.0 **	2.8 ± 0.5 **	1.4 ± 0.8 **	1.7 ± 1
本や雑誌を読む	なし	213	4.8 ± 0.6	2.1 ± 1.1	2.7 ± 0.7	1.1 ± 0.9	1.4 ± 1
	あり	477	4.9 ± 0.4 *	2.4 ± 0.9 *	2.8 ± 0.5 *	1.4 ± 0.8 **	1.7 ± 1
家族や友人の相談にのる	なし	179	4.8 ± 0.6	2.1 ± 1.1	2.6 ± 0.8	1.1 ± 0.9	1.4 ± 1
	あり	504	4.9 ± 0.4 *	2.4 ± 0.9 **	2.8 ± 0.5 **	1.4 ± 0.8 **	1.7 ± 1
若い人に話しかける	なし	117	4.8 ± 0.8	2.1 ± 1.2	2.5 ± 0.8	1.1 ± 0.9	1.2 ± 1
	あり	578	4.9 ± 0.4	2.4 ± 0.9 *	2.8 ± 0.5 **	1.4 ± 0.8 **	1.7 ± 1

* p<0.05, ** p<0.01 実施による差あり, # p<0.05, ## p<0.01 1日の歩数3000歩未満に対して差あり

厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)
分担研究報告書

沖縄地域における高齢者の役割の現状と生活満足度との関連

分担研究者 崎原 盛造 沖縄国際大学総合文化学部教授

研究要旨

沖縄県の老人クラブに所属する高齢者 537 名を分析対象に、役割の現状と生活満足度との関連を明らかにした。役割の実施状況は、家庭内では、家事を中心に担っていることが明らかになった。また、地域団体やボランティア活動への参加状況では、町内会活動や老人会への参加、趣味の会、地域への美化活動への参加、社会福祉に関する活動への参加が大半を占めた。これらの役割は、性別や年齢により異なり、その多くは、年齢とともに低下するが、一方で宗教的な活動については、年齢とともに多くなることが明らかになった。役割と生活満足度との関連では、男女とも団体や組織活動に参加することが生活満足度にポジティブに影響していたが、女性においてはこれに加え、家庭内での役割も生活満足度に影響することが示唆された。

A. 研究目的

平均寿命の上昇に伴い、要介護・要支援の高齢者が急激に増加することが予想される我が国においては、保健福祉領域におけるマンパワーや福祉施設の確保と同じように、介護予防についての保健福祉政策が重要となってきた。このような背景もあり、近年の介護予防事業は、運動、栄養、失禁、痴呆、抑うつ、閉じこもり、口腔ケア等を中心とした取り組みがなされてきており、一定の効果が証明されつつある。しかしながら、これらの取り組みの多くが身体的、心理的な介入であり、高齢者の生活に最も密接している社会関係や社会的役割の視点からの取り組みはあまりされていない。

老年学分野においてソーシャルサポートと定義される社会的支援については、従来から多くの研究成果が発表されている。しかし高齢者のソーシャルサポートに関する研究の多くは、社会的支援の「受領」に関する研究^{1,2)}が多く、高齢者を社会的支援が必要な弱者として位置づける研究が多かった。近年になり、高齢者のソーシャルサポートの他者への「提供」やボランティア活動が、高齢期の健康や QOL の維持・向上

と関係することが報告³⁻⁷⁾されてきている。また、宮城県の農村地区において、高齢者の転倒予防推進リーダーを中心とする転倒予防事業を 2000 年から展開し、その活動に参加した推進リーダーにおいては、体力の改善や拡張期血圧が低下するなどの身体への好影響も確認⁸⁾されており、地域におけるボランティア活動等の社会的な役割の遂行が自らの健康の維持・増進、さらには介護予防にとっても意義のあることが示唆されている。

しかしながら、これらのようにボランティアリーダー等の役割活動に参加する高齢者は、一般高齢者に比べて健康度が高いことが知られており⁹⁾、同じような役割を一般高齢者や虚弱高齢者が担うには無理がある。そのため、高齢者の健康レベルや年齢、性別に合わせた役割づくりは、保健福祉施策において急務の課題である。

そこで、本研究では、地域における高齢者の役割の現状を把握し、どのような役割が生活満足度と関連を示すのかを検討することを目的としている。

B. 研究方法

調査対象者は、沖縄県老人クラブ連合会の約7万人の会員の中から1%を6地区ごとに抽出した。その内訳は、北部地区150名、中部地区320名、那覇市25名、南部地区130名、宮古地区45名、八重山地区30の合計700名であった。

これらの対象者に対して、調査は2005年の1~2月にかけて実施した。調査方法は、老人クラブ会員による配票留置調査を実施した。その結果、546名(回収率78.0%)から調査票を回収した。このうち分析対象者は、性別、年齢に欠損値がなく、移動能力(厚生労働省の寝たきり判定基準)のランクJに該当する537名とした。

分析は、役割の状況と生活満足度との関連について実施した。役割の現状については、①職業の有無とその内容、今後希望する仕事の内容、②シルバー人材センターや高齢者事業団の仕事の有無、③家庭内での役割の有無、④地域の団体等への参加の有無、今後希望するボランティア活動の内容を取り上げた。役割と生活満足度との関連については、生活満足度の指標としてLSIK¹⁰⁾を用いた。

分析方法は、役割の状況については、性、年齢を説明変数とするクロス集計を行い、 χ^2 により統計的検定を行った。役割と生活満足度との関連では、役割の①~④のそれぞれの項目についての単相関係数を男女別に求めた。

C. 研究結果

表1は、分析対象者の性別と年齢階層別のクロス集計を表している。男女ともに60歳代の割合が約3割、70歳代が約6割、80歳以上が約1割であった。ちなみに、分析対象者の平均年齢は、72.97歳であった。仕事に従事している者の割合は、全体の17.7%であった(表2)。また、仕事に従事している者の割合を性別、年齢階層別に検討した結果、統計的に有意差が確認されたのは、性別のみであった。つまり女性よりも男性において仕事に従事している者の割合が高いことが示された。仕事の内容についての内訳(表2・1)は、男性では農林漁

業関係(47.1%)、事務・技術・管理関係(19.1%)、販売・サービス関係(17.6%)が主なものであった。女性では、農林漁業関係と事務・技術・管理関係が全体の8割を占めていた。年齢階級別に検討すると、農林漁業関係は加齢とともに従事している者の割合が高く、その他の職種については、80歳以降に低下または皆無になることが示された。今後従事してみたい仕事内容については、男性においては5割、女性においては約8割の高齢者が「希望なし」と回答している(表2・2)。一方、希望する内容としては、農林漁業関係が最も多かった。

表3は、シルバー人材センター・高齢者事業団の仕事の経験がある者の割合をしめしている。経験がある者の割合は、全体の約7%であった。

表4は家庭内での役割の実施状況を表している。家庭内での役割については、食事の支度、洗濯、掃除、家計・財産管理、網棚・仏壇の管理、ごみ捨て、留守番・電話番、漬物・乾物・味噌づくり等の項目において、有意に女性が役割を遂行していることが示された。男性では、大工仕事・家の修繕を役割として担っていることが確認された。年齢階級別の分析では、孫の世話・保育、大工仕事・家の仕事において有意な差が確認された。つまり、これらの項目は、加齢とともに役割を担えなくなることが示された。しかし、神棚・仏壇の管理については、加齢とともに役割として担う傾向にあることが示唆された。

表5は、地域団体や組織への参加状況を表している。男性では女性に比べて、体育・スポーツ関係指導団体、退職者団体、政治関連団体・後援会活動等において有意に参加状況が多いことがわかる。女性では、婦人会・女性団体、趣味・レクリエーション関係のサークル、ボランティア関連団体等への参加が男性に比べて多いことがわかる。年齢階級別では、町内会・自治会活動、民生委員、福祉関係団体、趣味・レクリエーション関係のサークル、地域の文化や祭りに関わる組織、宗教関連団体、政治関連団体・後援会、ボランティア関連団体におい

て有意な差が確認された。つまり、町内会・自治体活動、民生委員、福祉関係団体、趣味・レクリエーション関係のサークル、地域の文化や祭りに関わる組織、政治関連団体・後援会、ボランティア関連団体への参加は、加齢とともに低下することが示された。一方で宗教関連団体への参加は、加齢とともに増加することが示された。

表6は、地域でのボランティア活動への参加状況を表している。地域の美化・環境保護に関する活動、青少年健全育成に関する活動、交通安全に関する活動への参加は女性より男性において有意に多かった。年齢階層別では、有意な差は認められなかった。ボランティア活動への参加希望内容は、地域の美化・環境保護に関する活動、社会福祉に関する活動が最も多かった(表6-1)。

表7は、役割の状況と生活満足度との単相関分析において有意な項目を男女別に表している。その結果、男性では、老人会・高齢者団体、保健や食生活改善関係の推進組織、体育・スポーツ関係指導者団体、地域の文化や祭りに関わる組織、農協・漁協・森林組合、退職者団体、ボランティア関連団体等への参加が生活満足度と有意に関連していることが示唆された。また、女性では庭などの手入れ、漬物・乾物・味噌づくり、婦人会・女性団体、民生委員や福祉関係の団体・組織等への参加が生活満足度と関連していることが示された。

D. 考察

平均寿命の上昇に伴い、要介護・要支援の高齢者が急激に増加することが予想される我が国においては、介護予防事業として、運動、栄養、失禁、痴呆、抑うつ、閉じこもり、口腔ケア等を中心とした取り組みがなされており、一定の効果が証明されつつある。しかしながら、これらの取り組みの多くが身体的、心理的な介入であり、社会的な視点からの介入が未だ進んでいない。

老年学分野においてソーシャルサポートと定義される社会的支援については、従来から多くの研究成果が発表されている。その

中には、高齢者のソーシャルサポートの他者への「提供」やボランティア活動などで表される役割活動が、高齢期の健康やQOLの維持・向上と関係することが報告³⁻⁸⁾されてきている。しかしながら、地域高齢者を対象とした役割作りプログラムの開発は未だされていなく、実用的な介入に至っていない。

このような背景からも、本研究において地域高齢者が担っている役割の現状の把握と生活満足度との関連を明らかにすることは、高齢者の介護予防施策にとって有用な情報となることが予想される。

仕事に従事する者の割合は、女性に比べ男性で有意に多く、専攻研究¹¹⁾と一致する結果であった。年齢においては、有意差が確認されていなく、年齢とともに離職するという専攻研究¹¹⁾の結果とは異なった。この理由としては、本研究の回答者の従事している職種の大半が農林漁業という第一次産業だったため高齢になっても離職しないことが推測できるが、他の地域との比較も今後検討していく必要がある。

シルバー人材センター・高齢者事業団の仕事の経験については、男女ともに1割未満であった。このようなことから、地域高齢者にこれらのシステムが十分に活用されていないことが示唆された。

家庭内の役割については、男性に比べ女性の方がより多くの役割を担っていることが明らかにされた。一方で、男性も大工仕事・家の修繕等において役割を担っていることが示唆されており、家庭内の役割に性別が重要な意味を持っていることが確認された。年齢においても、孫の世話や大工仕事等は、年齢とともに役割を担う割合が減少することが示唆された。しかしながら、神棚・仏壇の管理については、年齢とともに役割を担う傾向にあった。一般的には年齢とともに役割が低下すると考えられているが、内容によっては加齢により新たな役割を担う必要があることをこの結果は表していると考えられる。

地域団体や組織への参加状況は、性、年齢よる差が確認された。男性では、体育・

スポーツ関係の指導団体、政治関連団体、退職者団体等への活動が女性より多く参加している。Aleksiej¹²⁾らは、政治的活動は女性に比べ男性に多く見られることを報告しており、本研究の成果の一部を支持するものである。また、運動指導を中心としたボランティアへの地域高齢者の参加希望は、男性の方が有意に多いことを報告している先行研究¹¹⁾や一般的に女性に比べ男性の方が仕事仲間とのネットワークが強いことを考えると、これらの結果は十分理解できるものである。一方女性では、婦人会などの女性団体、趣味、ボランティア関連団体などへの参加が有意に多かった。ボランティアに参加した高齢者の約半数が「新たな人間関係ができた」という回答¹³⁾からもわかるように、これらの活動への参加は、男性よりも柔軟なソーシャルネットワークを有している女性において、これらの活動を通して社会関係の形成を行う機会と利用していることが推測できる。年齢別では、多くの項目において加齢とともに参加状況が減少していくことが確認された。これらの結果は、先行研究¹¹⁾においても同様の結果が報告されており、加齢が地域団体や組織への参加を抑制させる要因の一つであることが示唆された。しかしながら、宗教関係団体への参加については、年齢とともに参加状況が有意に増加することが確認され、高齢者における宗教的な役割が重要な意味を持っていることが推測できる。

ボランティアへの参加状況は、女性よりも男性において有意に多く、先行研究¹³⁾の結果と同様の知見が得られた。また、地域の美化活動、体育・スポーツ・文化活動、社会福祉等の活動は、多くの地域高齢者が参加しており、これらの活動が高齢者のボランティア活動の中心であることが明らかにされた。

このように、役割には性別や年齢による差が確認されたが、一方で多くの高齢者に担われている役割があることも本研究では明らかにされた。家庭内での役割では、食事の支度、洗濯等の家事を約半数以上の高齢者が実施していることが明らかになった。

地域団体ボランティア活動への参加では、町内会・老人会などの団体や趣味の会、美化活動や社会福祉に関する活動への参加が多くの高齢者に担われており、役割作りプログラムを作成する上で、これらの項目を考慮して作成する必要があると考えられる。

役割と生活満足度との関連では、男女ともに異なる項目で正の相関が確認された。男女ともに老人会や婦人会、民生委員会等の組織に所属することが生活満足度と有意に関連していた。特に男性では、地域のリーダーとしての活動や仕事を通じた関係（組合や退職者団体）などの関わりが重要であることが示唆された。一方で、女性では組織活動に参加することに加え、庭いじりや漬物作りなどの家庭内の役割が生活満足度に影響することが示唆された。

本研究は、沖縄の地域高齢者の中でも、老人クラブに所属する元気な高齢者を対象としている。つまり本研究で得られた結果は、地域高齢者の中でも介護保険認定を受けていないような虚弱高齢者に必ずしもそのまま当てはめることはできない。しかしながら、本研究で得られた結果は、役割が性別や年齢により異なることが明らかにされており、今後役割作りプログラムを作成する上で有用な情報となると考えられる。今後は、性別、年齢に加え、身体機能の状態や世帯構成も含めた詳細な分析が必要である。

E. 結論

沖縄県の高齢者を対象に、役割の現状と生活満足度との関連を明らかにした。役割の実施状況は、家庭内では、家事を中心に担っていることが明らかになった。また、地域団体やボランティア活動への参加状況では、町内会活動や老人会、趣味の会、地域への美化活動、社会福祉に関する活動への参加が大半を占めた。これらの役割は、性別や年齢により異なり、その多くは、年齢とともに低下するが、一方で宗教的な活動については、年齢とともに多くなることが明らかになった。役割と生活満足度との関連では、男女とも団体や組織活動に参加

することが生活満足度にポジティブに影響していたが、女性においてはこれらに加え、家庭内での役割も生活満足度に影響した。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

特になし

H. 知的所有権の取得状況

特になし

研究協力者：

島貫秀樹（東北大学医学研究科障害科学専攻）

山城久弥（沖縄国際大学総合文化学部4年生）

引用文献

- 1) 原田さおり、蔡淑娟、崎原盛造、他。地域高齢者のソーシャルサポートと抑うつ症状及び生活満足度の関連。琉球医学会誌 2001 ; 20 : 61-66.
- 2) 野口裕二。高齢者のソーシャルネットワークとソーシャルサポート—友人・近隣・親戚関係の世帯類型別分析—。老年社会科学 1991;13 : 89-105.
- 3) 金恵京、甲斐一郎、久田満 他。農村在宅高齢者におけるソーシャルサポート授受と主観的幸福感。老年社会科学 2000 ; 22 (3) : 395-404.
- 4) Krause N, Herzog AR, Baker E. Providing support to others and well-being in later life. J Gerontol. 1992 ;47(5):300-11.
- 5) N. Morrow-Howell et al.Effects of Volunteering on the Well-Being of Older Adults. J. Gerontol. B. Psychol. Sci.·Soc. Sci. 2003; 58(3): 137 – 145.
- 6) 横川吉晴、甲斐一郎、中島民江。地域高齢者の健康管理に対するセルフエフェカシー尺度の作成。日本公衛誌 1999 ; 46

(2) : 103-113.

7) 日下菜穂子、篠置昭男。中高年のボランティア活動参加の意義。老年社会科学 1998 ; 19 (2) : 151-159.

8) 芳賀博、他。地域の後期高齢者に対する転倒予防対策の介入効果に関する研究。平成 13 年度～平成 14 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書 2003.

9) 芳賀博。転倒予防活動事業における高齢推進リーダーの特性に関する研究。高齢者における効果的な転倒予防活動事業の推進に関する研究 平成 15 年度厚生科学研究補助金（長寿科学総合研究事業）平成 15 年度総括・分担研究報告書（代表 新野直明）2004 : 29-40.

10) 古谷野亘、柴田博。生活満足度尺度の構造：因子構造の不変性。老年社会科学 1990 ; 12,102-116.

11) 玉腰暁子、青木利恵、大野良之、他。高齢者における社会活動の実態。日本公衛誌 1995 ; 42(10) : 888-896.

12) Aleksej etal. Social participation in very old age: Cross-Sectional and longitudinal findings from BASE. J. Gerontol. B. Psychol. Sci. 2002; 57(6): 510 – 517.

13) 高野和良。高齢者と社会参加活動—ボランティア活動の現状分析から—。日本都市社会学会年報 1997 ; 15 : 39-52.

表1 分析対象者の特性

	60-69歳	70-79歳	80-88歳	合計
男性	73 (28.7)	157 (61.8)	24 (9.4)	254 (100)
女性	68 (28.5)	140 (58.6)	31 (13.0)	239 (100)
合計	141 (28.6)	297 (60.2)	55 (11.2)	493 (100)

表2 仕事に従事する者の割合

	有職者	無職者	合計	
男性	68 (27.6)	178 (72.4)	246 (100)	**
女性	15 (6.7)	209 (93.3)	224 (100)	
60-69歳	25 (18.4)	111 (81.6)	136 (100)	n.s.
70-79歳	51 (18.1)	230 (81.9)	281 (100)	
80-88歳	7 (13.2)	46 (86.8)	53 (100)	
合計	83 (17.7)	387 (82.3)	470 (100)	

*p<0.05 **p<0.01

表2-1 現在の職業の内容

	農林漁業関係	生産・運輸関係	販売・サービス関係	事務・技術・管理関係	その他	不明	合計
男	32 (47.1)	5 (7.4)	12 (17.8)	13 (19.1)	4 (5.9)	2 (2.9)	68 (100)
女	6 (40.0)	1 (6.7)	()	6 (40.0)	()	2 (13.3)	15 (100)
60-69歳	10 (40.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	5 (20.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	25 (100)
70-79	23 (45.1)	2 (3.9)	9 (17.6)	13 (25.5)	2 (3.9)	2 (3.9)	51 (100)
80-	5 (71.4)	()	1 (14.3)	1 (14.3)	()	()	7 (100)

表2-2 今後希望する職業の内容

	農林漁業関係	生産・運輸関係	販売・サービス関係	事務・技術・管理関係	その他	なし	合計
男	23 (28.8)	4 (5.0)	3 (3.8)	3.0 (3.8)	7 (8.8)	40 (50.0)	80 (100)
女	5 (11.9)	1 (2.4)	2 (4.8)	()	()	34 (81.0)	42 (100)
60-69歳	9 (20.5)	2 (4.5)	2 (4.5)	1 (2.3)	4 (9.1)	26 (59.1)	44 (100)
70-79	17 (26.2)	3 (4.6)	3 (4.6)	2 (3.1)	3 (4.6)	37 (56.9)	65 (100)
80-	2 (15.4)	()	()	()	()	11 (84.6)	13 (100)

表3 シルバー人材センター・高齢者事業団の仕事の経験の有無

	経験ある	経験なし	わからない	合計
男性	14 (6.1)	213 (92.6)	3 (1.3)	230 (100) n.s.
女性	18 (8.7)	184 (89.3)	4 (1.9)	206 (100)
60-69歳	7 (5.6)	115 (92.0)	3 (2.4)	125 (100) n.s.
70-79歳	24 (9.3)	232 (89.6)	3 (1.2)	259 (100)
80-88歳	1 (1.9)	50 (96.2)	1 (1.9)	52 (100)
合計	32 (7.3)	397 (91.1)	7 (1.6)	436 (100)

表4 家庭内における役割の実施状況

	男性	女性	60-69歳	70-79歳	80-88歳
食事の支度	15.9	92.9 **	54.3	51.7	60.0
洗濯	21.4	97.9 **	58.6	57.8	63.6
掃除	44.0	97.5 **	69.3	70.3	70.9
家計・財産管理	43.3	57.7 **	48.6	51.4	49.1
孫の世話・保育	21.4	24.7	29.3	22.0	12.7 *
親や配偶者の介護	5.2	8.8	7.9	7.5	1.8
ペット・家畜の世話	15.1	15.1	16.4	15.3	10.9
神棚・仏壇の管理	25.4	67.8 **	40.0	46.6	58.2 Δ
庭の手入れ	73.8	74.5	71.4	75.3	74.5
ごみ捨て	56.0	86.2 **	65.7	73.0	70.9
留守番・電話番	18.7	45.2 **	27.1	32.1	40.0
近所付き合い・自治会活動	75.0	81.6 Δ	77.1	78.7	78.2
大工仕事・家の修繕	27.4	5.9 **	22.9	16.9	1.8 **
漬物・乾物・味噌づくり等	1.2	46.4 **	23.6	23.0	23.6
その他	2.0	3.4	2.1	2.7	3.6

$\Delta p < 0.10$ * $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

表5 地域団体や組織への参加状況

	男性	女性	60-69歳	70-79歳	80-88歳
町内会・自治会	70.1	66.9	75.9	66.7	60.0 Δ
老人会・高齢者団体	92.5	88.7	90.8	91.9	83.6
婦人会・女性団体	1.2	25.5 **	14.9	12.1	12.7
民生委員・福祉関係団体	19.7	20.9	29.8	16.8	14.5 **
保健・食生活改善等の推進組織	3.5	8.4 *	8.5	4.7	5.5
体育・スポーツ関係指導団体	19.3	9.2 **	17.7	11.8	20.0
趣味・レクリエーション関係のサークル	45.7	70.7 **	66.0	55.6	49.1 *
地域の文化や祭りに関わる組織	34.6	39.3	45.4	32.7	38.2 *
農協・漁協・森林組合	22.4	19.2	23.4	20.9	14.5
商工会・法人会などの商工団体	2.0	3.8	4.3	2.0	3.6
宗教関連団体	3.9	6.7	0.7	6.4	10.9 **
政治関連団体・後援会	11.0	3.3 **	12.1	5.7	3.6 *
戦友会・遺族会	5.9	8.4	5.7	6.7	12.7
退職者団体	29.1	20.9 *	29.1	24.9	16.4
ボランティア関連団体	24.0	34.3 *	39.7	26.3	16.4 **
その他の団体	6.3	4.6	8.5	4.7	1.8

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

表6 ボランティア活動への参加状況

	男性	女性	60-69歳	70-79歳	80-88歳
地域の美化・環境保護に関する活動	87.4	77.0 **	85.1	82.5	74.5
募金活動・チャリティーバザー	1.6	2.9	2.8	2	1.8
体育・スポーツ・文化に関する活動	44.5	38.1	40.4	41.1	45.5
社会福祉に関する活動	51.6	51.5	54.6	52.5	38.2
青少年健全育成に関する活動	6.7	1.7 **	5	4	3.6
交通安全に関する活動	4.7	0.8 **	2.1	3.4	1.8
国際交流(協力)に関する活動	0.0	0.4	0	0.3	0
その他の活動	3.5	5.0	2.8	5.7	0

表6-1 今後参加したいボランティア活動

	男性	女性	60-69歳	70-79歳	80-88歳
地域の美化・環境保護に関する活動	8.3	3.8	9.2	5.1	3.6
募金活動・チャリティーバザー	0.4	0.4	0.7	0.3	0
体育・スポーツ・文化に関する活動	1.6	1.3	2.8	1.0	0
社会福祉に関する活動	5.9	6.3	6.4	6.4	3.6
青少年健全育成に関する活動	1.6	0	0	1.0	1.8
交通安全に関する活動	1.6	0.4	0	1.3	1.8
国際交流(協力)に関する活動	0	0.4	0	0.3	0
その他の活動	3.1	1.7	1.4	3.0	1.8

表7 役割と生活満足度との単相関係数

	男性	女性
庭などの手入れ		0.21 **
漬物・乾物・味噌づくり		0.19 *
老人会・高齢者団体	0.18 **	
婦人会・女性団体		0.18 *
民生委員や福祉関係の団体・組織		0.15 *
保健や食生活改善関係の推進組織	0.18 **	
体育・スポーツ関係指導者団体	0.21 **	
地域の文化や祭りに関わる組織	0.18 **	
農協・漁協・森林組合	0.14 *	
退職者団体	0.16 *	
ボランティア関連団体・組織	0.15 *	